

「未来の学校施設のあり方」に関するご意見について

分類 ＜資料 4 該当箇所＞				内容 (原則原文のまま記載)
P.2	1 これからの武蔵野市の学校教育に求められる目標と施策の基本的な方向性	(3) 子どもたちにとって「明日また行きたい」と思える学校＜基本理念＞	①基本理念「子どもたちにとって『明日また行きたい』と思える学校」 ②環境整備の主なポイント	本理念の『明日また行きたいと思える学校』はとても良いフレーズだと思いました。そのうえで、コンセプトを実現する手法に表記されている「学びと地域が自然とつながる開かれた拠点」に対する記述が、ラーニングコモンズや学年コモンズのみで、「地域と自然なつながり」を想起できる表現になっていないと思います。同様に P 2 ページ後段、②理念を実現するためのアプローチ部分にも、「地域」に関連する記述が何かしらあっても良いのではと思いました。
P.2	1 これからの武蔵野市の学校教育に求められる目標と施策の基本的な方向性	(3) 子どもたちにとって「明日また行きたい」と思える学校＜基本理念＞	①基本理念「子どもたちにとって『明日また行きたい』と思える学校」 ②環境整備の主なポイント	基本理念にある「子どもたちにとって『明日また行きたい』と思える学校」という考え方に強く賛同します。たたき台でも、学校は単に学ぶための箱ではなく、子どもたちが多様な出会いや居場所を得られる場として位置づけられています。一方で、昨年度・今年度に完成している学校施設を見ると、機能性や安全性、標準化が重視されている反面、全体として少し無機質で、子どもが長時間過ごす生活の場としては息苦しさを感じる部分があります。特に、ラーニングコモンズやオープンスペースなど、開放的で柔軟な空間を整備する方針自体はよいと思いますが、空間が広く明るいだけでは、必ずしも「安心できる居場所」にはならないと感じます。子どもたちが落ち着ける小さな居場所、木質感や自然素材、柔らかな色彩、緑や外部空間とのつながり、少しこまれる場所など、心理的な安心感や温かみを感じられる設えを、計画段階から重視してほしいです。
P.3	1 これからの武蔵野市の学校教育に求められる目標と施策の基本的な方向性	(4) 校舎全体をゆるやかにつなぐ学びの空間整備＜基本方針＞	-	ここでまとめられている学校施設整備に向けた考え方（「校舎全体をゆるやかにつなぐ学びの空間整備＜基本方針＞」などについては、五中一中の改築の際に打ち出されたものであるが、実際に五中・一中が完成して新校舎での学校生活が始まっている中で、これらの考え方がどの程度の有効性を発揮しているのか、どのような検証が行われたのかについては確認をさせていただきたいです。
P.4	1 これからの武蔵野市の学校教育に求められる目標と施策の基本的な方向性	(5) 学校改築における共通原則と各学校の特色	①標準化を図る事項 ②各学校の特徴を活かす事項（地域との調和）	標準化は公平な教育環境を整えるうえで重要ですが、すべての学校が同じような印象になってしまうと、地域に根ざした学校らしさや、子どもたちが愛着を持てる雰囲気が弱くなるのではないかと懸念します。各学校の特徴を生かす事項として、地域の歴史、景観、住環境等と調和し、児童生徒や地域住民から永く愛される施設を目指すと言われています。そのため、標準化とあわせて、学校ごとの個性や温かみをどうつくるかも、より明確にしてほしいです。「明日また行きたい」と思える学校にするためには、機能的で安全だけでなく、子どもがほっとできる、楽しい、居心地がよいと感じられる空間であることが大切だと思います。今後の学校施設整備では、無機質になりすぎないよう、子どもの目線での居心地や愛着、温かみのある空間づくりを重視していただきたいです。
P.4	1 これからの武蔵野市の学校教育に求められる目標と施策の基本的な方向性	(5) 学校改築における共通原則と各学校の特色	①標準化を図る事項 ②各学校の特徴を活かす事項（地域との調和）	今後の財政見通しも鑑み標準的な考え方で改築を進めるという方針は、理解できるものです。ただし、改築を進めてきた中で、完成した五中、一中の状況を見ると、改築後のランニングコスト（光熱水費、空調管理委託費等）が相当増額している実態があります。本市の学校施設整備において標準化は大切な考え方です。しかし、このコンセプトの考え方が他自治体に比べて相当高いレベルでの標準化であれば、それは意見を言わざるを得ません。つきましては、完成した五中、一中について、学校の規模やコスト面を含めてどう評価しているのか、また、その評価を踏まえ本基本計画の標準化にどう落とし込む考えかをお示しいただきたいです。
P.4	1 これからの武蔵野市の学校教育に求められる目標と施策の基本的な方向性	(5) 学校改築における共通原則と各学校の特色	①標準化を図る事項 ②各学校の特徴を活かす事項（地域との調和）	五中一中を見て感じているのは、校舎内の各箇所の面積が果たして本当に適正なものなのか、改めて検証が必要なのではないかという点です。人口推計により、人数の減少が見込まれている中で、新校舎全体の面積は従来のもより大きくなっているかと思います。必要なものは盛り込んでいく必要がありますが、公共施設全体の更新のボリュームが市政運営上の大きな課題となっている中で、真に必要なものにしっかりと精査して絞っていくというプロセスは必要だと思います。各種コモンズや、廊下の広さなども含めて、コンセプトは良いとして、現在想定されている人数に対して必要最小限となっているのか、過剰な部分はないのかという検証は必ず行っていただきたいです。例えば、それぞれの特別教室にそれぞれのコモンズが本当に必要なのか、などはぜひ検証していただきたい点だと思っています。
P.4	1 これからの武蔵野市の学校教育に求められる目標と施策の基本的な方向性	(5) 学校改築における共通原則と各学校の特色	①標準化を図る事項 ②各学校の特徴を活かす事項（地域との調和）	そうした検証を踏まえて、標準仕様としての共用部の面積の割合に一定のキャップをはめるなど、今後の改築においてより適正な規模となるような仕組みを、この計画の中でぜひ盛り込んでいくべきと考えます。
P.5	2 学校施設整備に向けた考え方	(1) 学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的な学びができる施設	ア 多様な学習形態を可能とする教室・教室まわり⇄さまざまな出会いができる多様な居場所	過去の審議会でカームダウンスペースについてお話があったと記憶しています。そちらについて今回は記載しないのでしょうか。
P.5	2 学校施設整備に向けた考え方	(1) 学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的な学びができる施設	ア 多様な学習形態を可能とする教室・教室まわり⇄さまざまな出会いができる多様な居場所	垣野先生が紹介していた教室を雁行陣のように並べるのが結構よいと思ったのですが、いかがでしょうか。

10	P.5	2 学校施設整備に向けた考え方	(1) 学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的な学びができる施設	ア 多様な学習形態を可能とする教室・教室まわり⇄さまざまな出会いができる多様な居場所	クールダウンスペース（発達上の特性がある児童生徒のスペース）
11	P.6	2 学校施設整備に向けた考え方	(1) 学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的な学びができる施設	ア 多様な学習形態を可能とする教室・教室まわり⇄さまざまな出会いができる多様な居場所	一人にもなれる学校 新校舎となった五中、一中は、開放的でゆるやかにつながる学びの空間として評価されている。一方で、どの場所においても周囲から見られているのではないかという懸念の声も上がっている。このプライバシーと開放性の課題に対して、施設面での工夫によって両者の両立が可能かどうか、検討できないか。
12	P.7、8	2 学校施設整備に向けた考え方	(1) 学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的な学びができる施設	ア 多様な学習形態を可能とする教室・教室まわり⇄さまざまな出会いができる多様な居場所 イ 主体的な学習活動を支援するラーニング・commonsの整備	小学校のオープンスペース、中学校の学年commonsなど、多くの開放的スペースが記述されていますが、例えば、開放的すぎるスペースで集中を要する学習と協働的な活動の両立は物理的に実現できているのか、五中や他自治体での検証実績などがあればご教示ください。
13	P.8	2 学校施設整備に向けた考え方	(1) 学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的な学びができる施設	イ 主体的な学習活動を支援するラーニング・commonsの整備	ラーニングcommonsは、充実させたい。
14	P.10、11	2 学校施設整備に向けた考え方	(1) 学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的な学びができる施設	エ 特別支援教室（個別指導室、小集団活動室） ク ICT環境の充実	施設整備にあたっての考え方とはいえ、記述が簡潔すぎる気がします。ICTではネットワークやセキュリティ面、特別支援教室関連ではインクルーシブ教育などの記述がもう少しあっても良いと思います。 第一期基本計画のP18（4）学校施設の機能・性能の維持・向上に関しては、財務部所管の施設課にも大きく関連する項目です。 複数校同時に改築することは現実的に難しい中、特に改築に至るまでの施設の保全の考え方は重要な視点だと思っています。今回のたたき台では、この部分の記述が完全に削除されていますが、この辺りの考え方を確認させてください。
15	P.11	2 学校施設整備に向けた考え方	(1) 学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的な学びができる施設	カ 管理諸室	コミュニケーションを活性化する職員室(カフェスペースや空間、一部フリーアドレス)
16	P.11	2 学校施設整備に向けた考え方	(1) 学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的な学びができる施設	カ 管理諸室	オンライン会議や保護者との電話相談に集中できる個室のブース
17	P.11	2 学校施設整備に向けた考え方	(1) 学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的な学びができる施設	ク ICT環境の充実	場所を選ばない通信環境とインフラ（高速WIFI）
18	P.11	2 学校施設整備に向けた考え方	(1) 学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的な学びができる施設	キ 特別な教育的支援を必要とする児童生徒のための環境整備	校内フリースクール(登校に課題のある児童生徒の別室登校スペース)
19	P.11	2 学校施設整備に向けた考え方	(1) 学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的な学びができる施設	サ ゆとりと潤いのある生活の場	たたき台には「ゆとりと潤いのある生活の場」として、児童生徒の行動範囲や心理的な影響も含めて施設を計画するとあります。この考え方を、単なる文言にとどめず、各学校の設計に具体的に反映していただきたいです。
20	P.12	2 学校施設整備に向けた考え方	(2) 地域のつながりを育てる施設の考え方	イ 学校開放（多機能化）のための施設環境の整備（施設連携・開放施設）	四中のように、体育館棟を地域開放させて、地域と共同の関係にしたい。
21	P.12	2 学校施設整備に向けた考え方	(2) 地域のつながりを育てる施設の考え方	ア 学校・家庭・地域連携・協働を支える施設	人材不足を解決する学校 地域団体の人材不足が課題となっている。学校は、子どもたちが地域で活躍する大人の姿を見る場でもあり、これが「大人になったら地域を支えたい」という意識につながる重要な学習機会でもある。同時に、学校は保護者にとっても繋がり場である。子どもの卒業後も地域や学校との関わりを続けたいと考える保護者をどう増やすか。この視点を学校設計に組み込むことで、地域全体の持続可能性が高まるのではないかと。
22	P.12	2 学校施設整備に向けた考え方	(2) 地域のつながりを育てる施設の考え方	イ 学校開放（多機能化）のための施設環境の整備（施設連携・開放施設）	地域エリアと学校エリアの分離（セキュリティの問題）
23	P.12	2 学校施設整備に向けた考え方	(2) 地域のつながりを育てる施設の考え方	ア 学校・家庭・地域連携・協働を支える施設 イ 学校開放（多機能化）のための施設環境の整備（施設連携・開放施設）	学校は子どもたちが先生や同級生だけでなく、地域のさまざまな大人と出会い、社会とのつながりを感じられる場でもあってほしいです。たたき台でも、学校・家庭・地域の連携・協働を支える施設や、地域連携・開放施設の整備が示されています。そのため、単に地域開放エリアを設けるだけでなく、子どもたちが地域の方々の活動や存在を自然に感じられるような、ゆるやかな接点のある空間づくりを検討してほしいです。たとえば、地域連携室、開放用多目的室、図書・学習空間、展示スペースなどを通じて、地域の方の学び・活動・見守りと、子どもたちの日常が適度に交わるような設計が望ましいと感じます。 もちろん、防犯対策は最優先であり、開放エリアと学校エリアの適切なゾーニング、出入口管理、見通しの確保、学校エリアへの不用意な侵入を防ぐ仕組みは不可欠です。たたき台でも、開放エリアと学校エリアを分離し、セキュリティを確保する考え方が示されています。 ただし、防犯を重視するあまり、学校が地域から閉じた施設になってしまうことは避けてほしいです。安全性を確保したうえで、子どもたちが地域の大人と出会い、多世代の関わりの中で育つことができる、開かれた温かい学校空間を目指していただきたいです。
24	P.13	2 学校施設整備に向けた考え方	(2) 地域のつながりを育てる施設の考え方	エ 地域の避難所となる施設	体育館棟を防災の拠点とする。

25	P.13	2 学校施設整備に向けた考え方	(2) 地域のつながりを育てる施設の考え方	エ 地域の避難所となる施設	大規模災害発災時の避難所の運営機能からの視点 災害発生時にはいち早く、安全に避難所の開設をしなければならない そのためには 避難所施設としてすることを考えて使用環境を整えておくことが必要となる。 荒天時であっても機能対応できる環境を望む。体育館は一般避難者が主に使用するが災害弱者は学校内で対応することとなる。 現在の施設利用計画も時間の経過で変更が迫られることが予測されます、コロナ感染症で見られた利用計画の変更があったようにこれからの状況に応じた様々な形での施設対応が求められます。 利用形態を柔軟に変更可能な設備設計を期待します。 避難者の安心安全な避難生活の維持 早期の避難所の終息のためにも避難所の運営には天候に影響されない施設設計が求められる。
26	P.13、15	2 学校施設整備に向けた考え方	(2) 地域のつながりを育てる施設の考え方 ----- -- (3) 安全な施設づくりの考え方	エ 地域の避難所となる施設 ----- - オ 環境との共生	環境や防災の視点からの蓄電池 太陽光発電設備の導入は良いが、蓄電池についての方針が明確になっていない。審議会として見解をまとめるべきではないか。
27	P.14	2 学校施設整備に向けた考え方	(3) 安全な施設づくりの考え方	ウ 複合化への対応	学校施設の複合化 (防災、保育園機能、介護施設、その他の機能)
28	P.17	2 学校施設整備に向けた考え方	(3) 安全な施設づくりの考え方	キ バリアフリーな施設	ジェンダーレスへの配慮(誰でもトイレの配置や、更衣室のプライバシー確保)
29	資料4 該当箇所なし				武蔵境の駅に近いエリアに統合校を (統合には反対ですが)
30	資料4 該当箇所なし				小中一貫校の再考
31	資料4 該当箇所なし				東京都の12学級以上の学校の割合は？自治体ごとの数は？ 最近建て替えた学校、学級数の現状は？